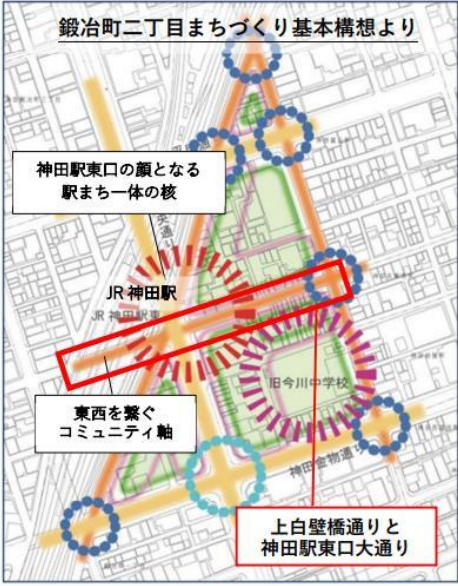
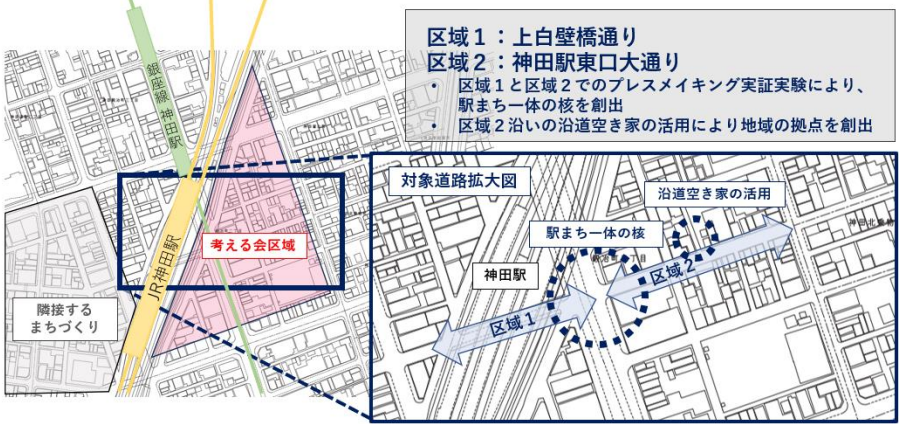


1. プレイスメイキング等の実証実験の実施内容

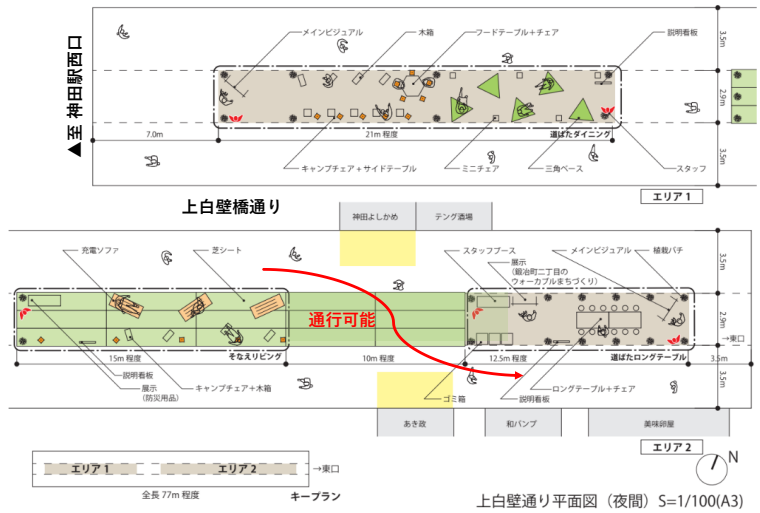
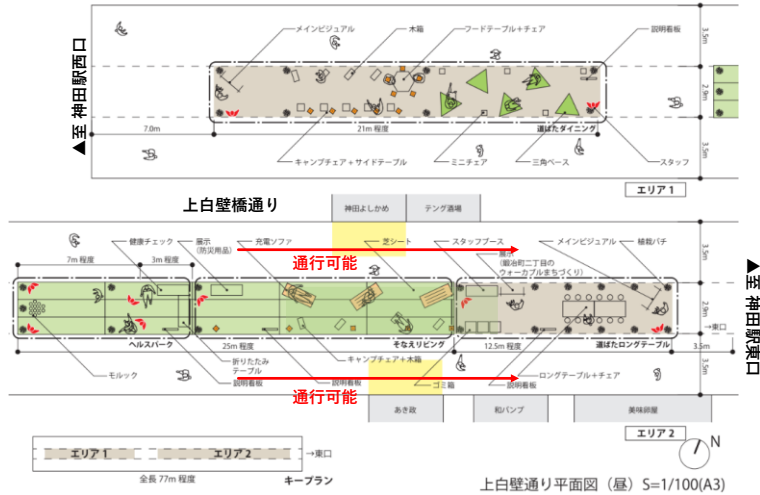
名称	神田駅の東西を繋ぐ上白壁橋通りと神田駅東口大通りのウォークアブルプロジェクト
実施エリア	千代田区鍛冶町二丁目 上白壁橋通り、神田駅東口大通りの一部(沿道施設の活用)
取組みの目的	<p>「まちづくり基本構想」の整備方針に基づき、「神田駅東口の顔となる駅まち一体の核」「東西を繋ぐコミュニティ軸」の形成を目指す。</p>  <p>鍛冶町二丁目まちづくり基本構想より</p> <p>神田駅東口の顔となる駅まち一体の核</p> <p>JR 神田駅</p> <p>東西を繋ぐコミュニティ軸</p> <p>上白壁橋通りと神田駅東口大通り</p>  <p>区域1：上白壁橋通り 区域2：神田駅東口大通り</p> <ul style="list-style-type: none"> 区域1と区域2でのプレスメイキング実証実験により、駅まち一体の核を創出 区域2沿いの沿道空き家の活用により地域の拠点を創出 <p>対象道路拡大図</p> <p>沿道空き家の活用</p> <p>駅まち一体の核</p> <p>神田駅</p> <p>区域1</p> <p>区域2</p> <p>隣接するまちづくり</p> <p>考える会区域</p>

取組み概要

【上白壁橋通り】

JR 線路高架下の通りについて、東西連携や日常的な活用に繋がるコンテンツ(オープンカフェ、滞在空間、各種企画等)を設えた。

○実験の対象エリア



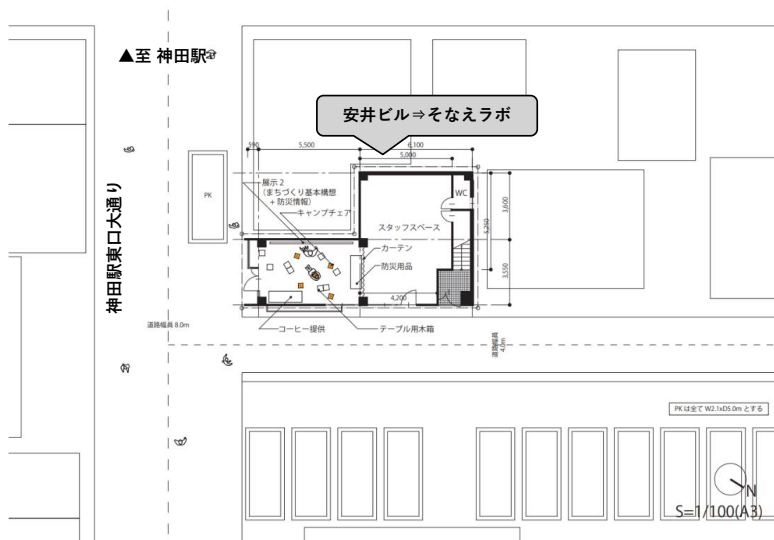
○実験時の様子



【神田駅東口大通り】


”歩きやすく居心地が良い空間”を目指して、沿道の空き家を活用した交流拠点(基本構想や防災情報の発信、カフェの出店等)づくりや、沿道のベンチを活用した滞在空間を設置した。


○実験の対象エリア




○実験時の様子



実施 スケジュール	企画 段階	10月4日:千代田区都市計画課打合せ ・ 企画内容の確認、実施までの進め方についてを確認した。
		10月7日:プロジェクトチーム打合せ ・ 千代田区ミーティングの内容共有 ・ 企画内容の精査、実施までの進め方について相談。
		10月18日:まちづくりを考える会役員会 ・ モデル活動Aに採択されたこと、プロジェクトの実施体制、進め方を報告。
		10月24日:プロジェクトチーム打合せ ・ 具体的な実施内容、会場図面、見積り、スケジュールなどについて確認・意見交換 ・ 沿道地権者への説明について相談。
		10月26日:千代田区都市計画課打合せ ・ 具体的な実施内容について報告、沿道地権者への説明について相談。
		11月1日:まちづくりを考える会全体会 ・ モデル活動Aに採択されたこと、プロジェクトの実施体制、進め方を報告。 ・ 「東西を繋ぐコミュニティ軸」を実現するために実験したい具体的な内容についてワークショップにて意見交換。トークテーマ①:地域の意見の集め方、トークテーマ②:防災と暮らし、トークテーマ③:緑の創出 ＼第16回考える会での意見交換の結果！／
		 <p>地域の意見集めプロジェクト どのように地域の意見を集めたら良いでしょうか？ ・ 車での周知が重要だろう。ポスターやチラシ、SNSを活用してはどうか。 ・ 最近のマンスンの建設により、新規の住民が増えてきているので、その方々の意見も聞けると良い。 ・ 平日であれば、オフィスワーカーが多いので、オフィスワーカー目線での意見も集められそう。 ・ 身近なテーマの方が答えやすいと思う。</p> <p>防災と暮らしプロジェクト 誰を対象に、どんな防災情報を周知したら良いでしょうか？ ・ 敵地はオフィスが多いので、帰宅困難者の問題が起こりえる。 ・ 町会だけでは対応が難しいので、企業の防災意識を高め、備える必要がある。 ・ 若い家族やお年寄りの方への配慮も必要である。 ・ 行政から企業に投げかけてもらうことはできないか。 ・ 日本橋空町には再開発の整備による避難場所が確保されている。</p> <p>緑いっぱいプロジェクト どのように地域の意見を集めたら良いでしょうか？ ・ 植物を買うだけではなく、各自の店や家から持ち寄ることもできる。 ・ イベント終了後には持ち帰って店先に置き、次のイベント時にはまた持ち帰って活用できるのではないかと。 ・ 実がなる植物を育てて、加工品を作ることもできそう。 ・ ゆくゆくは道路の花壇等も整備をしたいが、まずは民地でできることから取り組んでみるのが大切。</p>
		11月2日:地域の関係者を招集したキックオフミーティング ・ 考える会としては、地権者の枠を超えて商店街や町会所属の企業、JR 神田駅と初めて意見交換をする機 ・ 会だったので、考える会の活動経緯や基本構想案についても説明。 ・ モデル活動Aに採択されたこと、プロジェクトの実施体制、進め方を報告。 ・ 商店会や関係企業の協力を得られることを確認。
		11月2日:区委託業者 打合せ ・ 運営費支援とアンケート調査について打合せ。
		11月10日:警察へ道路使用許可協議 ・ 実施内容を説明し道路使用を許可頂けることを確認。

実施 スケジュール	準備・ 試行 段階	11月16日:広報のための写真撮影 ・ 区報に掲載するため、上白壁橋通りにて考える会の平野会長と、上白壁橋飲食商店街の麓会長の写真を撮影。
		11月14日:プロジェクトチーム打合せ ・ レンタルする備品、購入する備品について確認→発注
		11月15日:プロジェクトチーム打合せ ・ 考える会やキックオフミーティングを踏まえて検討した実施内容の詳細について確認。
		11月22日:木製フレーム(モクタンカン)組立てテスト ・ 当日メインビジュアルを貼りだすための木製フレームの組み立てをテスト。
		11月28日:千代田区都市計画課・区委託業者 打合せ ・ 実施内容や実証実験当日の詳細について説明。 ・ 区委託業者よりアンケートの内容について説明を受け意見交換。
		11月29日:B会場となる安井ビル借り受け ・ 日鉄興和不動産より設備工事が完了した安井ビルを実証実験実施までの間借り受ける。
		12月9日:鉢植えワークショップの準備 ・ 12/10に実施する鉢植えワークショップの準備を安井ビルにて実施。
		12月10日:鉢植えワークショップ、会場設営 《鉢植えワークショップについて》
		 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実証実験当日に会場を緑化するため、オリーブの鉢植えを量産。 ・ 地権者をはじめとした参加者にて植木鉢のデザインと、オリーブの木を植えるワークショップを行った。 ・ 植木鉢は鍛冶町二丁目のイメージカラーであるブルーと、今回の実証実験にて差し色として採用したオレンジに白を加えた 3色で統一して色塗りした。 ・ 実証実験終了後は地域の店舗等にて店先に置いてもらい、同じデザインの植木鉢・同じ植物が鍛冶町二丁目エリアで見られる景観まちづくりの仕掛けを施した。 <p>《会場設営について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上白壁橋通りと安井ビルの壁面にポスターやイメージカラーのテープを貼るなど、事前にできる設営を行った。
		12月15日:前日準備 ・ 当日に使う備品整理、消耗品の購入、ポスターの配布等の作業を行った。

<p>実施 スケジュール</p>	<p>実施 段階</p>	<p>12月16日:実証実験当日 【日時】2022年12月16日(金)10:00~16:00,17:00~20:00 【対象】神田駅周辺で暮らす全ての人 【区域】上白壁橋通り、神田駅東口大通りの一部 沿道施設の活用) 【計寄力企業】 明治安田生命保険相互会社、広友物産株式会社、首都圏不燃建築公社、日鉄興和不動産株式会社、野村不動産株式会社、株式会社松田平田設計、株式会社アールアンドディ新建築都市研究所、清水建設株式会社、株式会社コトナ、sharedvision 【コンテンツ】 区域 1:上白壁橋通り 1.道ばたロングテーブル ○従前の課題 ・ 神田駅周辺に待ち合わせや打合せまでの時間調整に軽く勉強、仕事、時間を潰せるようなフリーの滞在空間がない ・ 神田駅周辺は緑がすくない ○実施内容 ➢ 植栽を周囲に配置したロングテーブルを設置した。 ➢ 実証実験のために準備した植木は地域の店舗や企業でシェアすることで、実証実験後もまち全体の一体感をもたらした。 ➢ パソコン作業やテイクアウト品を飲食するなどの利用が見られた。</p>  <p>2.そなえリビング ○従前の課題 ・ 防災への意識が高い地域である ・ 中小企業やオフィスワーカーが多いが、防災意識に乏しい ○実施内容 ➢ 「そなえラボ」と合わせて、上白壁橋通りでも災害時にも活躍するキャンプ用品を使ったくつろぎのスペースを創出した。 ➢ 防災グッズの展示をした。日頃はコンパクトに収納でき、防災にもキャンプにも活用可能なエアクッションなどに関心を寄せる声が多く、防災意識の向上に寄与できた。</p> 
----------------------	------------------	---

<p>実施 スケジュール</p>	<p>実施 段階</p>	<p>3.ヘルスパーク</p> <p>○従前の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お年寄りも多いエリアであり、健康への関心が高い ・ オフィスワーカーや若者向けだけではなくお年寄りも楽しめるコンテンツが必要 <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 明治安田生命の協力により血管年齢測定等の健康チェックサービスを実施した ➢ 広友物産の協力により子供からお年寄りまで楽しめるモルック体験を実施した ➢ 昼前後を中心にオフィスワーカーの利用が増え、一日を通してお年寄りなどの利用も見られた。 
		<p>4.道ばたダイニング(オープンカフェ+テイクアウト促進)</p> <p>○従前の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上白壁橋飲食商店会ではテラス営業の道路使用許可を受けており、オープンカフェの機運が高い ・ 上白壁橋飲食商店会は5店舗のみであり、ランチ営業している店も少ない。 <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 上白壁橋飲食商店会に限らず周辺の店舗へもテイクアウトメニューの販売を呼びかけ、本実証実験において創出するオープンカフェの利用を促した ➢ テイクアウトマップを作成し周知した ➢ 訪れる人々がテイクアウトメニューを求めて神田駅周辺のエリアを回遊するきっかけとなった ➢ 夜は缶ビールなどを片手に宴会を楽しむ利用者の姿も見られた。 

<p>実施 スケジュール</p>	<p>実施 段階</p>	<p>区域 2-1:神田駅東口大通り沿道施設安井ビル</p> <p>1.情報発信</p> <p>○従前の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考える会の活動は地権者での活動にとどまっている。 ・ 地権者を超えて初めて実施するオープンな活動であり、まちづくり基本構想案やこれまでの活動 ・ を周知するために有効な機会である。 <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ これまでの考える会の活動や考える会で検討したまちづくりのテーマ、基本構想案等を周知した ➢ 当日は活動について説明するスタッフも配置し、多くの来場者にまちづくりの経緯を知って頂くことができた。 <div data-bbox="564 763 1321 1285"> </div>
		<p>2.防災について考える「そなえラボ」</p> <p>○従前の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災への意識が高い地域である ・ 中小企業やオフィスワーカーが多いが、防災意識に乏しい <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 災害に備えて日常的に取り組めることにチャレンジし、みんなで防災情報を共有する機会とした ➢ ハザードマップの抜粋等、地域防災情報を発信した <p>防災情報や避難リュック、防災グッズの展示した</p> <div data-bbox="555 1693 1310 1957"> </div>

実施
スケジュール

実施
段階

3. コーヒーの提供

○従前の課題

- ・ 対象とした道路沿いには喫茶店等の集える空間が乏しい

○実施内容

- ・ 元喫茶店だった資源を活かし、珈琲提供とともに集いを創出した
- ・ コーヒーは周辺地域で自家焙煎豆を扱う珈琲店の豆を使用して提供し、マップで紹介した
- ・ 上白壁橋通りにてコーヒーチケットを配布し、そなえラボへの回遊性を促進させた



4. ライブラリーコーナー

○従前の課題

- ・ 鍛冶町二丁目や神田駅周辺についての情報をキャッチする機会に乏しい

○実施内容

- ・ 神田の歴史や防災についての本を用意した。
- ・ お年寄りや地域をよく知る人にとっても会話が弾むきっかけとなる企画だった。



<p>実施 スケジュール</p>	<p>5.アンケート</p> <p>○従前の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地権者以外の地域で暮らす方にもウォークابلまちづくりを考えてもらう機会にする工夫が必要 <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォークابلにしたい場所にシールを貼ってもらう簡単な参加型アンケートを行った。 ・ 今回会場とした東西に抜ける上白壁橋通り～神田駅東口大通りへの関心が高く、次いで神田ふれあい通りという結果となった。  <p>鍛冶町三丁目ウォークابل(Walkable)にしたい通りはどこですか?</p> <p>区域 2-2:神田駅東口大通り沿道施設 WAW 神田</p> <p>○従前の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象とした道路にはちょっと座れるベンチ等、生活者の一休みを支える空間に乏しい <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設入口のサイネージに本実証実験の広告を掲載した ・ ベンチにひと休みを促す看板「ひと休みベンチ」を設置した ・ 上白壁橋通りと安井ビルで企画を実施していることを周知するポスターを掲示した 
----------------------	--

<p>取組みの実施体制</p>		
<p>課題</p>	<p>企画段階</p>	<ul style="list-style-type: none"> 採択時に応募資料に記載されていたことについて、実施理由を後から検討する必要が出てきたり、協議の結果できなくなったり、変更事項が多かった。 採択から実施期限が3か月ほどしかなく、各種変更をするにはかなりタイトなスケジュールとなり、具体的な実際の準備に入ることができず大変だった。 地域でのキックオフ会議などには区も参加し、打合せ以外にも官民連携での活動であることが見える化できると良いように感じた。
	<p>準備・試行段階</p>	<ul style="list-style-type: none"> 購入品やレンタル費用について、企画運営を担う立場の人間が立て替える必要があり、負担が大きかった。 経費について、大きな金額の立て替え等が発生する場合に直接請求等の支払い手段が必要だと感じた。 協力企業のロゴが出せないなどの厳しい指導が入ったため、広告物許可申請をする必要があることを早い段階で確認できるとよかった。 地域にとって初めての企画になるので保険加入などの指導もあったと良かった。
	<p>実施段階</p>	<ul style="list-style-type: none"> 警察協議資料等で事故の際の連絡体制などの整理はしていたものの、もう少し具体的にどのような事故が起きる可能性があるのか、リスクイメージを共有しておくべきだった。
<p>広報活動の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ちらしを作成し、鍛冶町二丁目の店舗へ配布した。 ポスターを作成し、一部店舗や JR 神田駅に掲示してもらうとともに、会場である上白壁橋通り壁面にも掲示した。 Facebook 等の SNS では企画に関わる個人ベースでの発信となったが、鍛冶町二丁目まちづくりを考える会としてのページを作成できるよう事前にオーソライズしておけばよかった。 	

取組みの効果	<ul style="list-style-type: none">・ 鍛冶町二丁目まちづくりを考える会にて作成したまちづくり基本構想(案)に基づいて、具体的なアクションを起こす大変有意義なきっかけとなった。・ 地域としても、寂しい印象や活用が不十分な印象を持っていた上白壁橋通りにおいて、賑わい創出のイメージを掴むことができたようで、継続したいとの声も上がっていた。・ 今回はキッチンカーを置くことができなかったものの、今後の可能性を確認することができた。・ 神田駅東口大通り沿いの安井ビルでの交流拠点づくりでは、近隣にお住いのお年寄りや、近隣企業の社員が多く立ち寄り、これまでの日常にはなかった地域の集いのシーンを創出することができた。・ 上白壁橋通りと安井ビルの企画を連携させたことで、コーヒーチケット配布の効果もあり、一定数の回遊を創出することができた。・ モデル活動として 1 回で終わることなく、継続して実施していくための伴走を千代田区にも協力頂けると次に繋がるように感じる。
--------	---

2. 効果計測

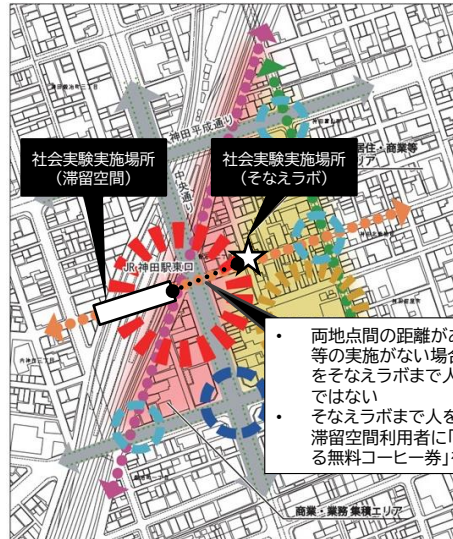
(1) 効果計測の狙い

鍛冶町二丁目 まちづくり案

※ 鍛冶町二丁目 まちづくりを考える会にて意見交換した内容を整理し、「まちづくり案」を作成した。
※ まちづくりの具体的な内容を検討する際の指針とし、子地区区へも地元のアジアとして報告する。

全体目標：「若い人からお年寄りまで、住み、働き、集える 粹で洒落たまち」

- 1  **神田駅東口の顔となる駅まち一体のまちづくり**
神田を訪れる全ての人を迎えるゲートとして相応しい空間の維持・向上
住む人にとっても訪れる人にとっても便利で楽しい駅前を形成を目指す
- 2  **神田のシンボルとなる交流と防災の拠点**
住む人の憩いの場でありながら災害時を支える拠点整備を推進
訪れる人に鍛冶町の魅力を伝える施設を導入
- 3  **アクセス良好な東西を繋ぐコミュニティ軸**
通勤経路として利用に配慮し働く人が集える通りとして維持・向上
高架下（上白壁通り）の利用や西口側との連携を促進
- 4  **“神田らしさ” 溢れる飲食軸**
働く人、訪れる人、住む人、みんなが立ち寄れる横丁づくり
既存店舗との連携を図りながら更新し賑わいを南北に連ねる
- 5  **あいさつ飛び交う地元軸**
近隣とのコミュニティを育み、神田祭等の歴史を継承した通りを創出
植栽や舗装等により魅力ある歩行者空間の整備を促進
- 6  **みんなの憩いの場**
軸の結節点に休憩・待ち合わせ等ができる広場や店舗の整備を目指す
東西南北の目印となる空間づくりに配慮
- 7  **周辺地域と神田を繋ぐ交通軸**
車、徒歩による周辺地域からのアクセス路として賑わいを維持・向上
街路樹等の整備により美観に配慮した通りを創出
- 8  **日本橋エリアより人々を迎える神田のゲート**
車、徒歩での来街者を神田エリアに迎える神田の顔を形成
通勤時間の利用に配慮した街カド空間を創出



- ・ 両地点間の距離があることから、取組のPR等の実施がない場合、上白壁橋通り通行者をそなえらぼまで人を引き込むことは容易ではない
- ・ そなえらぼまで人を引き込む仕掛けとして、滞留空間利用者に「そなえらぼで利用できる無料コーヒー券」を配布

図1 実証実験の概要

(2) 効果計測の実施内容

○前述の狙いを検証するために、以下の4種類の調査を実施する

- ①アクティビティ調査
- ②歩行者通行量調査
- ③滞留空間利用者アンケート
- ④そなえラボ利用者アンケート

○各狙いと調査の対応関係は下表に示す。

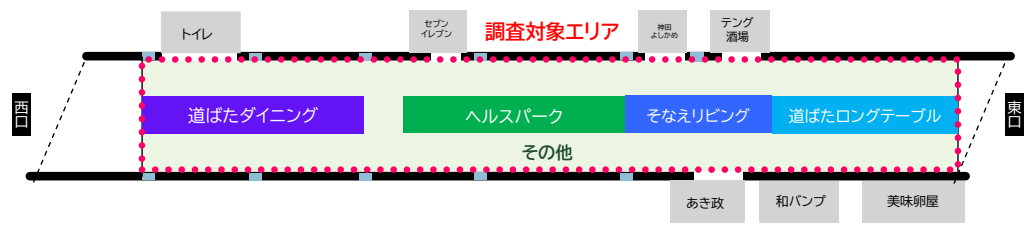
表1 狙いと実施する調査の対応関係

検証項目		実施する調査
I『アクセス良好な東西を繋ぐコミュニティ軸』の具体化の効果	上白壁橋通りが集える場所として利用されたか。【狙い①】	<p>①アクティビティ調査</p> <p>－社会実験前後で上白壁橋通りにおける活動の仕方は程度変化したか。</p>
	上白壁橋通り来訪者をそなえラボまで引き込むことができるか。【狙い②】	<p>③滞留空間利用者アンケート調査</p> <p>－利用者の上白壁橋通りに求める空間のニーズはどのようなものか。</p>
		<p>②歩行者通行量調査</p> <p>－社会実験前後で、上白壁橋通り、神田東口大通りの歩行者通行量は変化しているのか。</p>
	働きかけ(無料コーヒー券配布)により、そなえラボに人を引き込むことができるか	<p>④そなえラボ利用者アンケート調査</p> <p>－上白壁橋通りの滞留空間に寄ってから、そなえラボに来訪している方はどの程度いるか。</p>
II:地域の防災意識醸成の効果	情報発信により、人の防災意識に対する意識はどのように変化するか。【狙い③】	<p>④そなえラボ利用者アンケート調査</p> <p>－現状の防災意識はどの程度か。</p> <p>－情報発信を受けて、今後の防災意識は変化したか。</p>

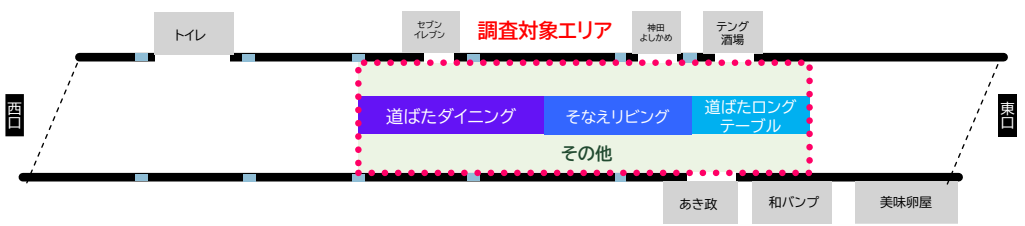
表2 各調査の実施内容

	調査実施日	調査時間帯	調査の概要	計測箇所
①アクティビティ調査	・12/9【社会実験前の平日】 ・12/16【社会実験実施日】	10時～ 20時	・上白壁橋通りの滞在する人の活動内容を把握する調査	・上白壁橋通り (次頁参照)
②歩行者通行量調査	・12/9【社会実験前の平日】 ・12/16【社会実験実施日】	10時～ 20時	・通過する歩行者量(男性・女性)のカウント調査 ・計測間隔は1時間	・上白壁橋通りで2地点、神田駅東口大通りで2地点 (次頁参照)
③滞留空間利用者アンケート調査	・12/16【社会実験実施日】	10時～ 20時	・実験参加者のアンケートの聞き取り調査 ・調査項目は次々頁参照 ・QRコードによるWEB調査 ※回答者数は24	・上白壁橋通り
④そなえラボ利用者アンケート調査	・12/16【社会実験実施日】	10時～ 20時	・実験参加者へのアンケートの聞き取り調査 ・調査項目は次々頁参照 ・QRコードによるWEB調査 ※回答者数は28	・そなえラボ【神田駅東口大通り】

調査対象エリア【10時～17時】



調査対象エリア【17時～20時】



10時から17時、17時から20時でコンテンツの実施エリアが変更となったことから、計測エリアは上図の様に設定。

図2 アクティビティ調査の計測箇所

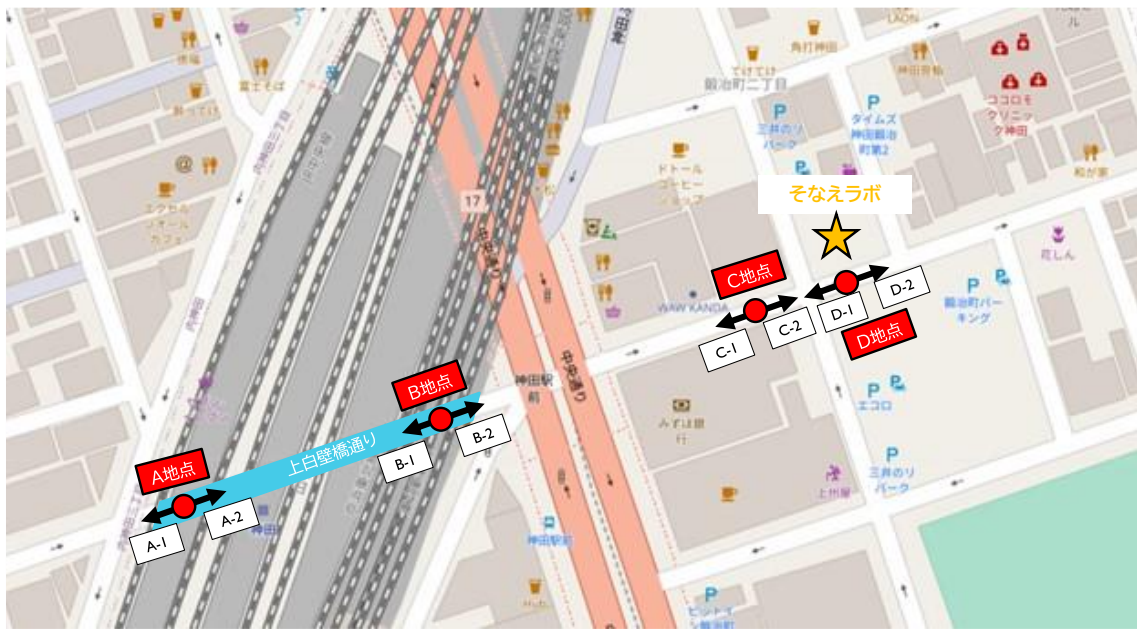


図3 歩行者通行量調査の計測箇所

表3 滞留空間利用者アンケート調査の調査項目

	項目
個人属性	・年齢 ・性別 ・居住地 ・勤務地 ・来訪手段 ・来訪目的
取組みの認知	・取組みを知ったきっかけ
上白壁橋通りの取組みについて	・取組み全般の満足度 ・設置した什器の利用の有無、使い方、満足度 ・取組みによる空間の飲食の変化 ・上白壁橋通りの空間の方向性
そなえラボについて	・そなえラボの利用の有無 ・(非利用者のみ)この後のそなえラボの利用意向
防災に対する意識	・普段、実施している防災対策 ・防災グッズをみたかどうか ・今後の防災対策の実施意向

表4 そなえラボ利用者アンケート調査の調査項目

	項目
個人属性	・年齢 ・性別 ・居住地 ・勤務地 ・来訪手段 ・来訪目的
取組みの認知	・取組みを知ったきっかけ
そなえラボについて	<防災に対する意識> ・普段、実施している防災対策 ・そなえラボの利用による防災意識の変化 ・今後の防災対策の実施意向 <コーヒー提供サービス> ・利用の有無 ・今後の利用意向
神田駅東口大通りについて	・滞留スペース(WAW 神田)の利用の有無 ・今後の滞留スペースの利用意向 ・神田駅東口大通りの空間の方向性
上白壁橋通りの取組みについて	・滞留スペースの利用の有無 ・(非利用者のみ)この後の滞留スペースの利用意向

(3) 効果計測の結果

1) 「狙い①:上白壁橋通りが集える場所として利用されたか」の検証

○本実験全般に対して、8割程度の方は「満足」「やや満足」と回答。
○各コンテンツの満足度は不満と回答した利用者は存在しなかった。

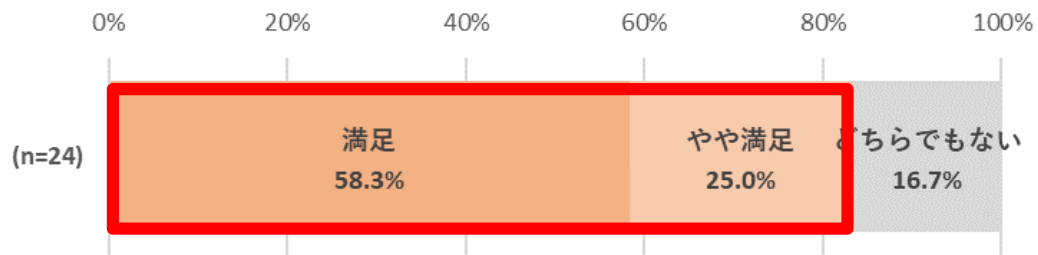


図4 社会実験全般の満足度

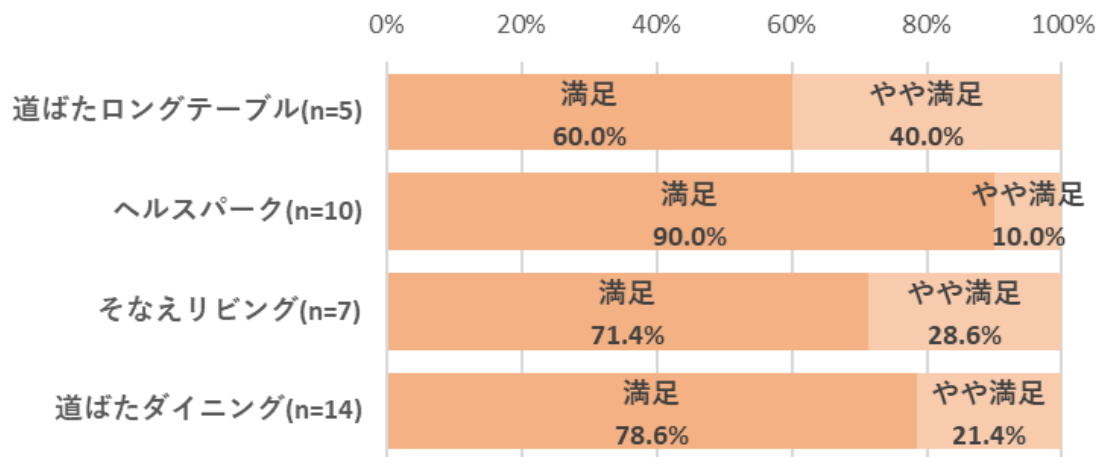


図5 各コンテンツの満足度

○本プロジェクトの効果として、実験参加者は「長く滞在できる空間」「賑やかな空間」になったと感じており、実際に、実験中の上白壁通りの滞留者の総活動時間は実験前に比べて、2倍以上増加。

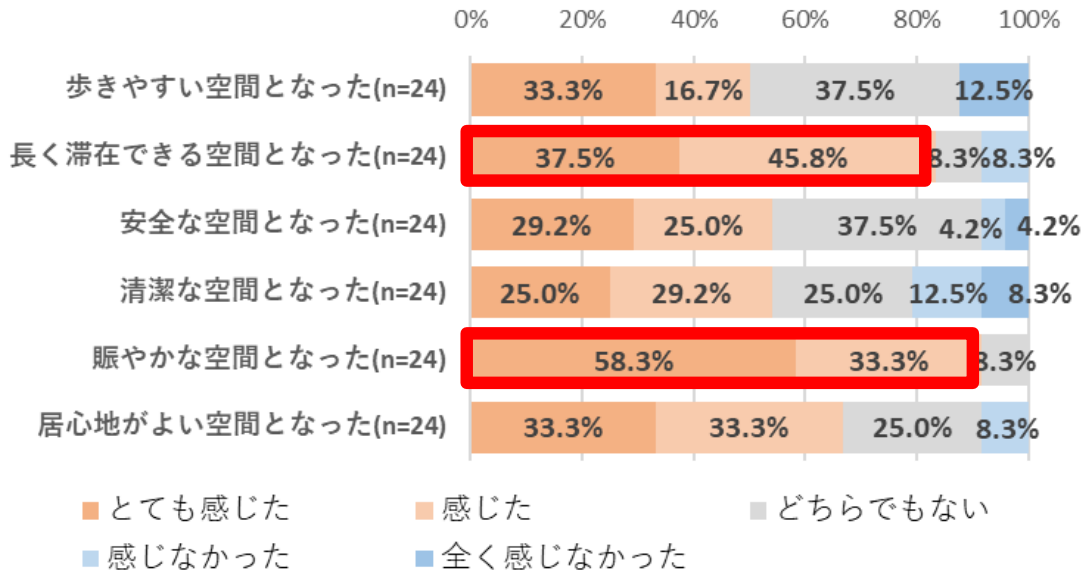


図6 実験が空間に及ぼした影響

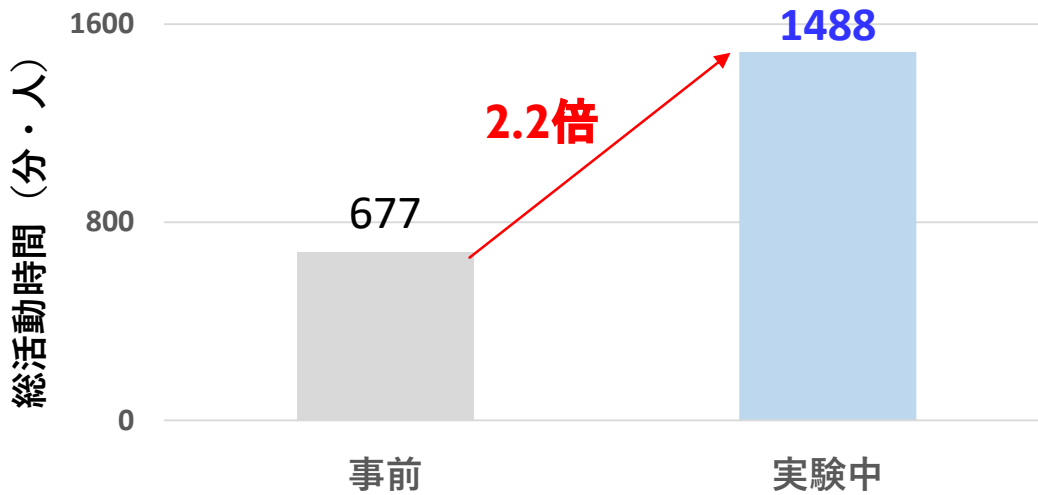


図7 滞在者の総活動時間の変化

○10時～17時においては、血管年齢・ベジチェック、食事する、会話するといった活動が増加していることを確認した。

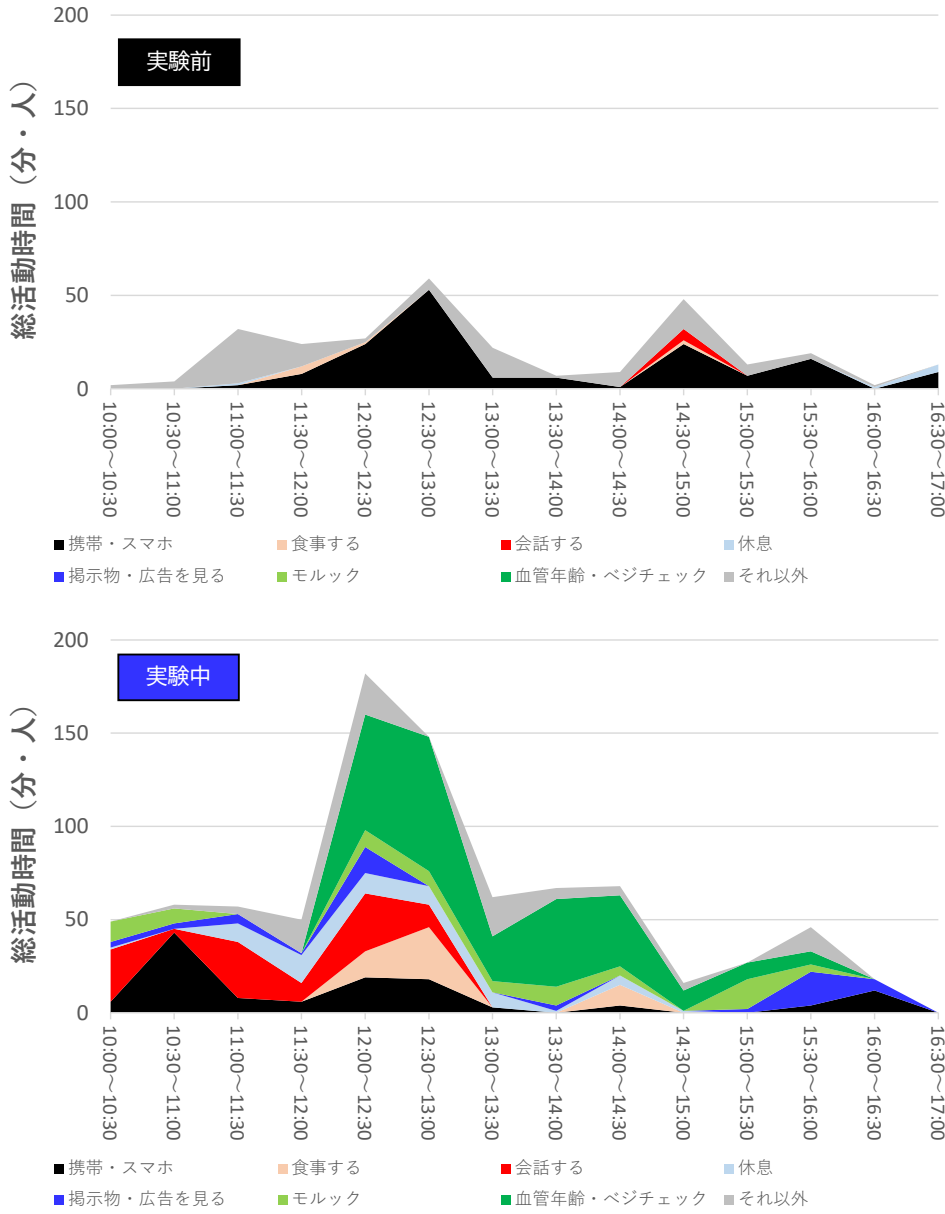


図8 実験前後の10時から17時の活動内容の変化

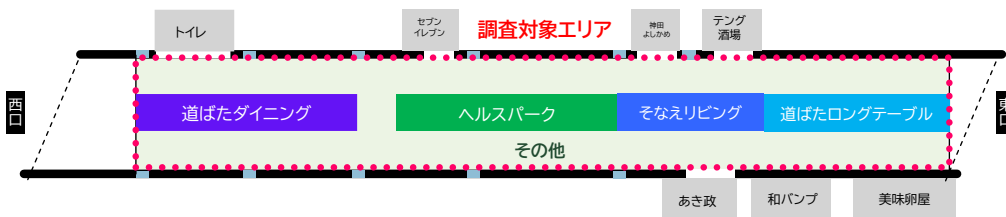


図9 調査対象エリア(10時～17時)

○17時～20時においては、実験前より多かつた飲酒が実験中も受け入れていることに加え、会話・休憩等の活動が増加していることを確認した。

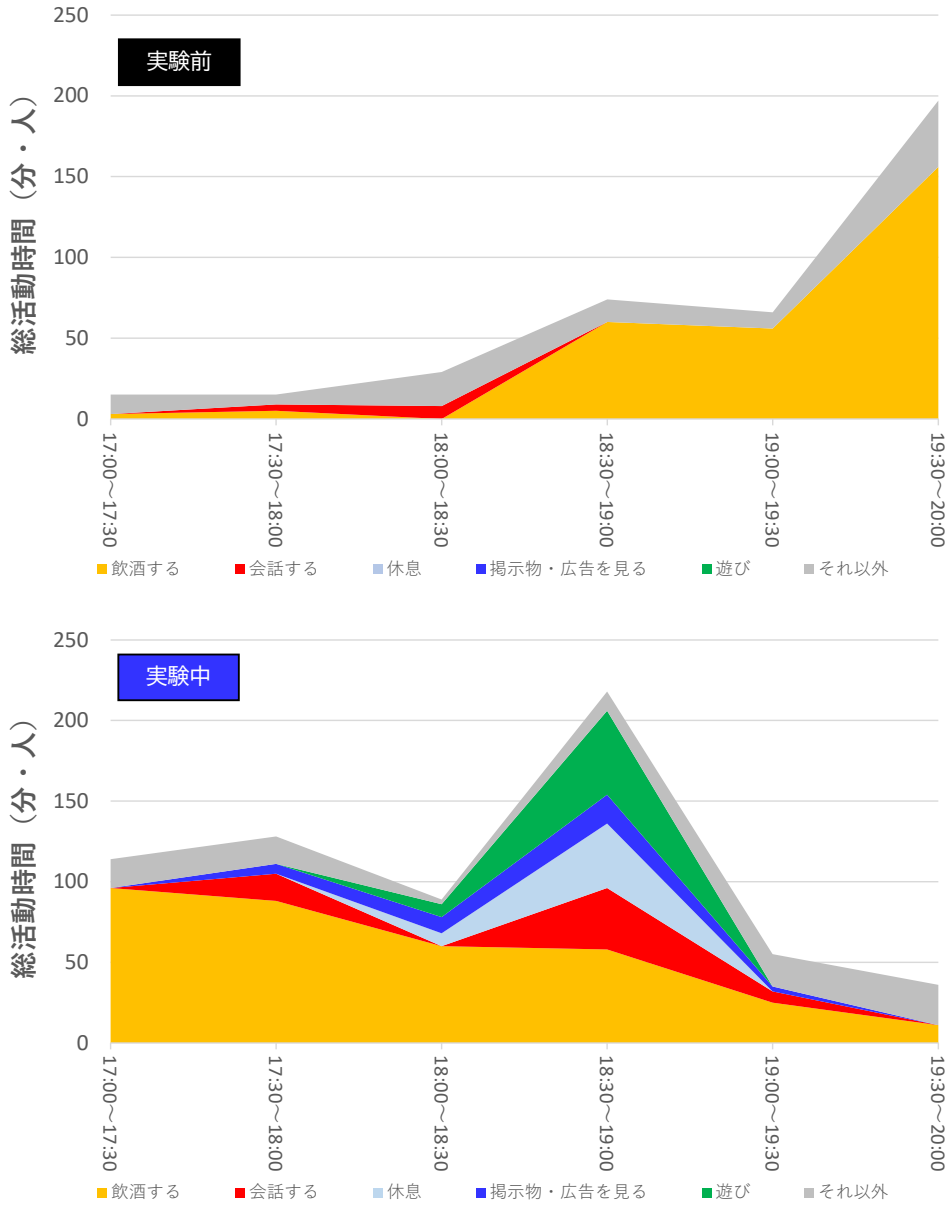


図 10 実験前後の10時から17時の活動内容の変化

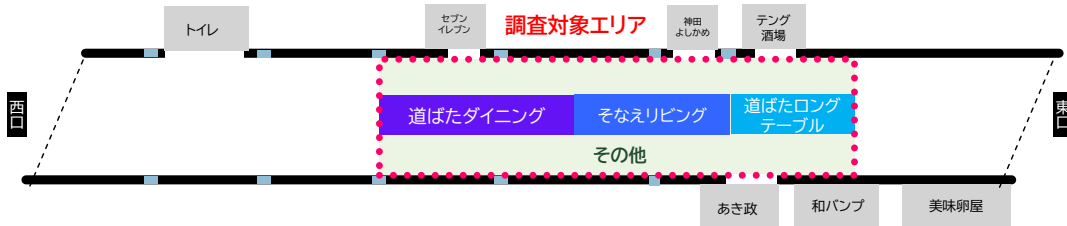


図 11 調査対象エリア(17時～20時)

○来街者の来訪目的により、空間に対するニーズは異なっており、今回のメインターゲット層である通勤・通学・業務目的の来訪者は仮説通り、「リラックスしながら仕事ができる場」のニーズが高い傾向にある。

○ただし、実際の活動として、仕事は実施されなかったことから、仕事をする場として認識されていなかった可能性が想定される。

表5 来訪目的別の空間に対するニーズ

	飲食(n=13)	通勤・通学・業務 (n=10)	その他私事(n=18)
リラックスしながら仕事 ができる場	23%	70%	17%
子供が自由に遊べる空間	31%	20%	44%
緑が豊かな空間	31%	20%	39%
新しい発見がある情報発信・アート活動の空間	23%	0%	11%
音楽演奏等のイベントが 実施される空間	8%	0%	0%
のんびりとくつろげる空間	31%	40%	28%
カフェ等が出店し飲食で きる空間	54%	30%	11%
マルシェ等が実施され買 い物を楽しめる空間	15%	10%	11%
これまで通り（社会実験 実施前）の空間	8%	10%	6%
その他	0%	0%	0%

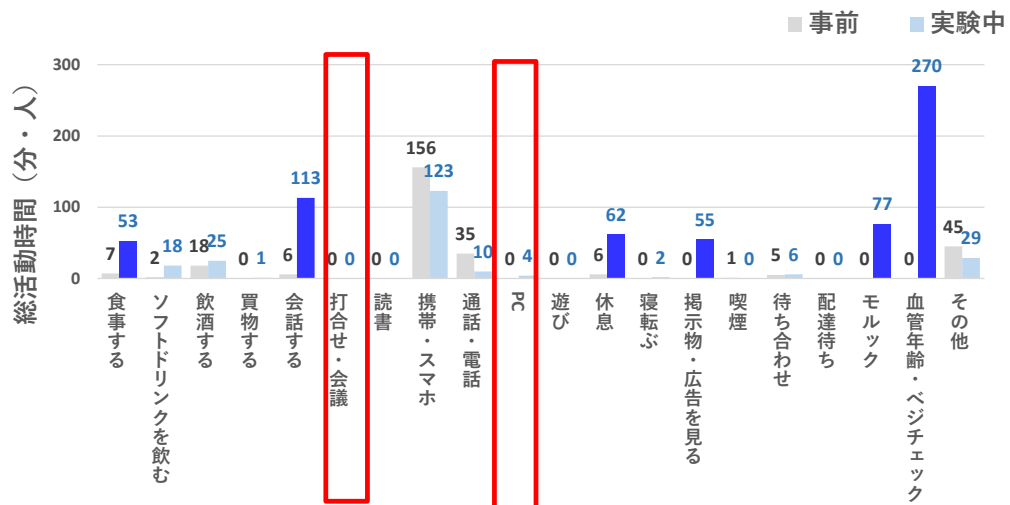


図 12 実験前後の 10 時～17 時における活動内容

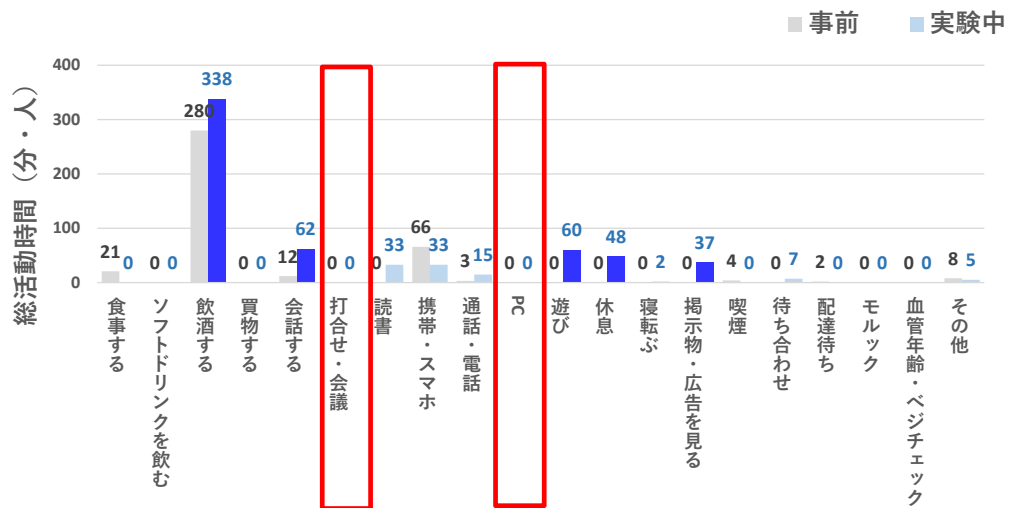


図 13 実験前後の 17 時～20 時における活動内容

2) 「狙い②:上白壁橋通り来訪者をそなえラボまで引き込むことができるか」の検証

- 歩行者通行量の変化は-3%~+3%の範囲に納まっており、歩行者通行量自体には大きな変化は確認できなかった。
- 上白壁橋通りとそなえラボの距離が離れていることもあり、上白壁橋通りの通行者が自然にそなえラボに引き込まれるような効果は確認できなかった。

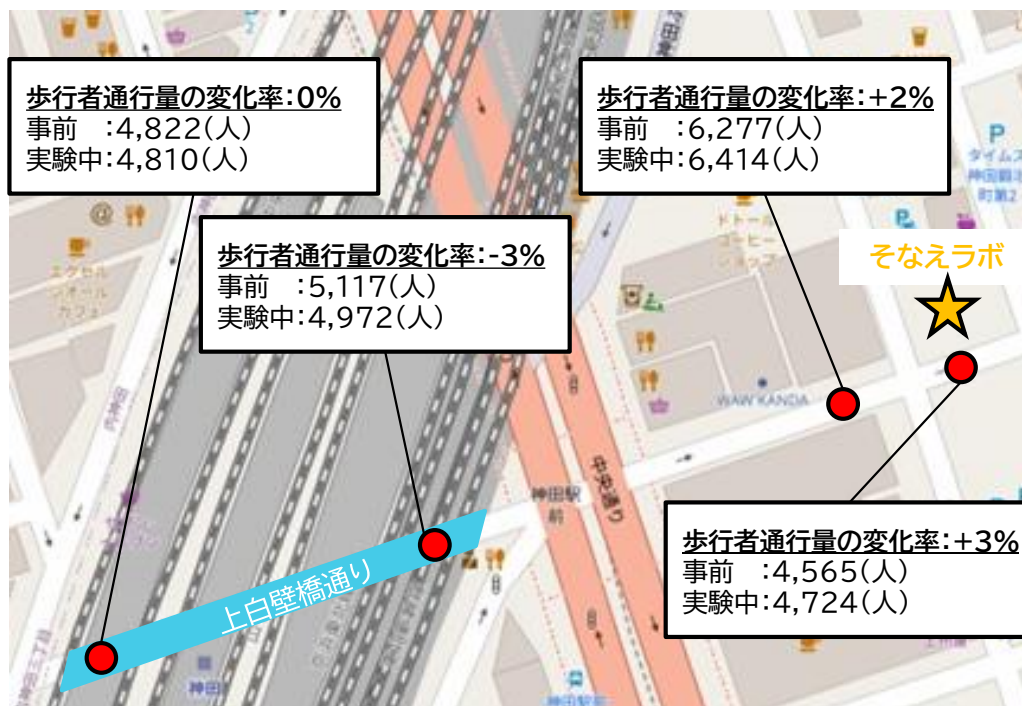
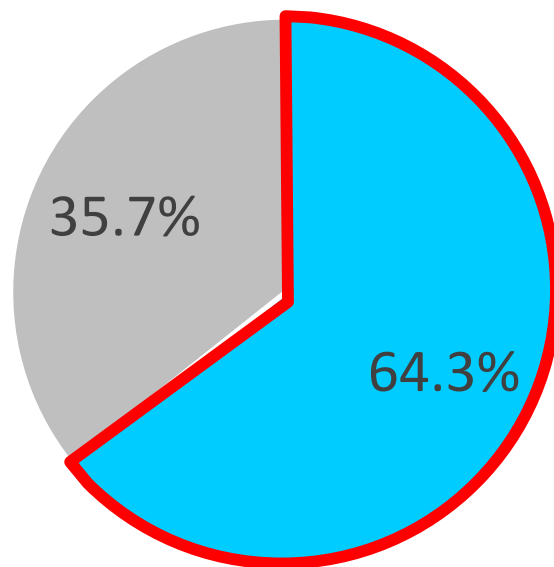


図 14 歩行者通行量の変化

○そなえラボの来訪者の内、6割程度が上白壁橋通りに立ち寄った後に、そなえラボに来訪していることが確認できた。
○そのため、そなえラボまで人を引き込む仕掛け(上白壁橋通りでの無料コーヒー券配布)としての効果は一定程度あったことが推察される。



■ 上白壁橋通りに寄って来訪 ■ 上白壁橋通りに寄らずに来訪

図 15 そなえラボ利用者の滞留空間(上白壁橋通り)の利用の有無

3) 「狙い③:情報発信により、人の防災意識はどのように変化するか」の検証

○「そなえラボ」利用者の 6 割は防災対策を実施していないと回答している
○「そなえラボ」の利用により、利用者の 4 割が現状の防災対策の実施の有無にかかわらず、防災意識が高まったと回答している。

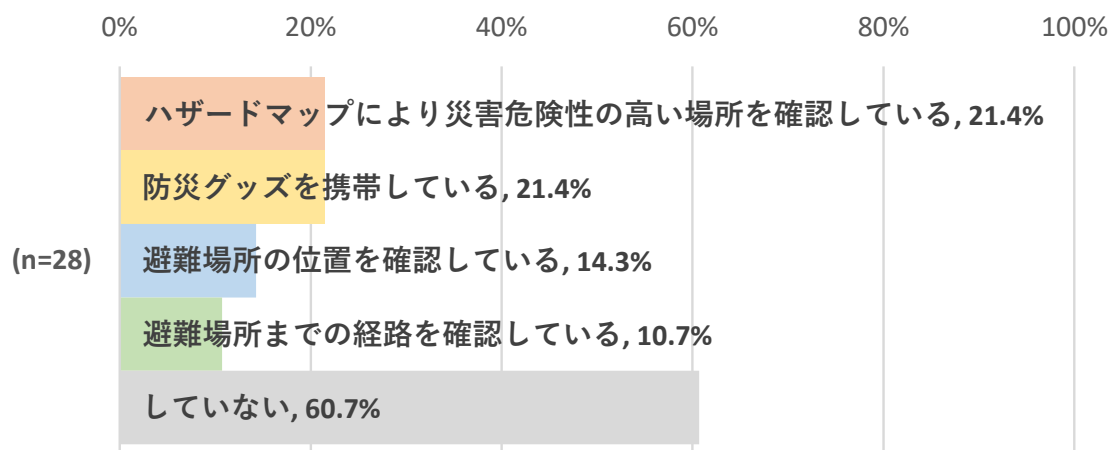


図 16 防災対策の実施の有無

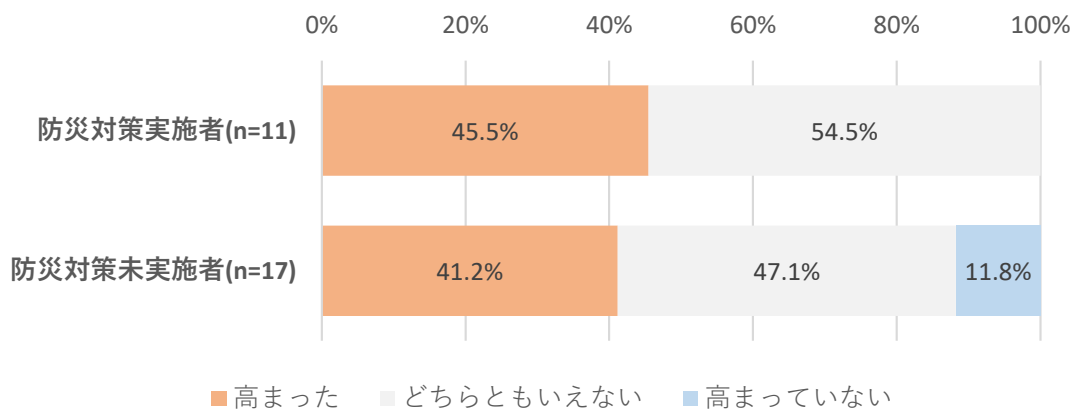


図 17 防災意識の変化

○また、具体的な対策の実施意向については、「そなえラボの利用者」の5割が現状の防災対策の実施の有無にかかわらず、「避難場所の位置を確認したい」との回答している。

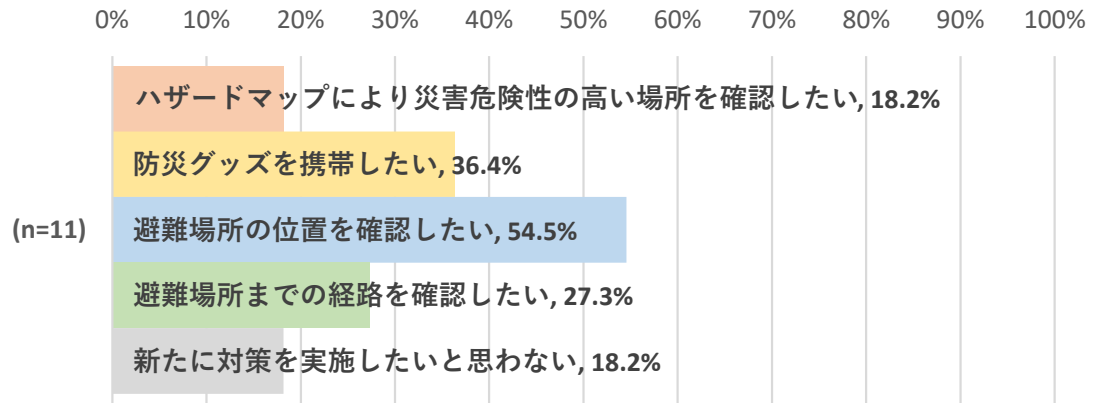


図 18 今後の防災対策の実施意向(防災対策実施者)

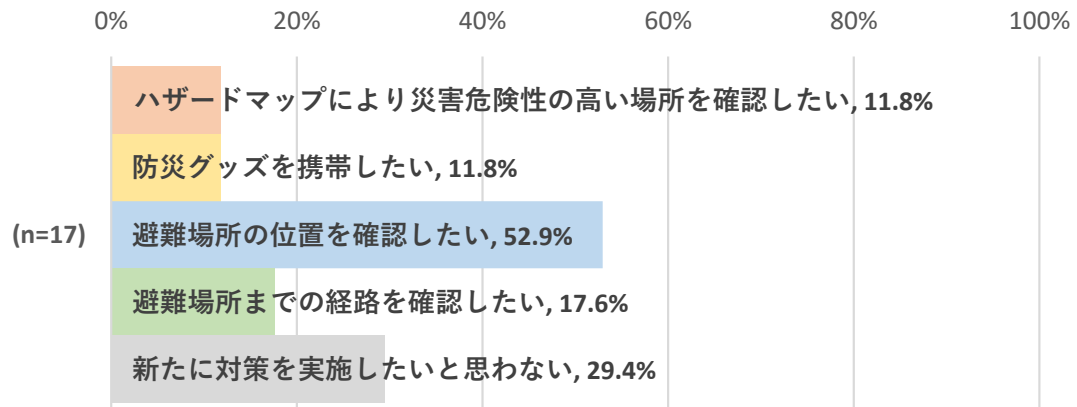


図 19 今後の防災対策の実施意向(防災対策未実施者)

3. アンケート

	設問項目	回答結果
1	<p>「プレイスメイキング等の実証実験」支援の内、取組みを進める上で、一番役に立ったものを教えてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実施場所確保に関する関係者との調整・相談・コーディネート協力 2. 活動費用の支援 3. 区広報紙や HP、SNS での情報発信 4. 活動の効果測定等の支援 5. 実証実験の結果報告作成の支援 	<p>2.活動費用の支援</p>
2	<p>「1」に記載の支援について、改善すべき点やご意見等がありましたら、教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・購入品など何かと先に費用が発生するため、誰かが負担することになる。事前の振込があると運営しやすい。 ・団体が任意団体で口座を持っていない際のフォローがあると良い。 ・今回の活動費支援では謝礼以外の人件費は対象外とあり、サポートする立場としては委託を受ける形にできず対応が難しかった。活動費用について、契約手続きと支払い手続きが複雑に感じるがあった。
3	<p>ウォークアブルなまちづくりを進める上で、その他、あった方がよい支援等がありましたら、教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・備品を購入して継続できるような形にしたいけど、保管場所がなく結局購入することができなかった。持続可能な活動とするため、費用面の支援だけでなく継続するための相談にも対応頂けると良い。 ・当初予定していたキッチンカーが置けないなど、後から庁内調整ができず中止せざるを得ないコンテンツが発生したことが残念だった。 ・まちづくりを考える会は地権者による団体だが、このような地域のムーブメントを起こすためには地権者の枠を超えた活動とする必要があり、その辺りのチームアップの支援、エリマネ団体への紹介なども継続して区から支援してもらえると良い。(事業者サイドからだ動きにくいこともある)

4	<p>今後も「プレイスメイキング等の実証実験」として行った活動を実施していきたいですか。</p> <p>1. はい 2. いいえ</p>	<p>1. はい</p>
5	<p>(問4で「1. はい」と回答した方)今後の活動の実施に向けてはどの支援が必要だと考えますか。【複数選択可】</p> <p>1. 実施場所確保に関する関係者との調整・相談・コーディネート協力 2. 活動費用の支援 3. 区広報紙や HP、SNS での情報発信 4. 活動の効果測定等の支援 5. 実証実験の結果報告作成の支援 6. その他</p>	<p>1.実施場所確保に関する関係者との調整・相談・コーディネート協力 2.活動費用の支援 3.区広報紙や HP、SNS での情報発信 4. 活動の効果測定等の支援 5. 実証実験の結果報告作成の支援</p>
6	<p>(本実証実験の実施を踏まえた)ウォークアブルなまちづくりの展望がありましたら、教えてください。</p>	<p>・まちづくり基本構想に記載される地域軸を中心に、ウォークアブルなまちづくりのエリアを広げていく。 ・具体的なハード整備が入る際にスムーズにウォークアブル化できるよう実績を積む ・今回できた商店街との繋がりを大切に、地権者の枠を超えた活動に育てる。</p>
7	<p>(今後の活動費用の支援の内容を検討する上での参考として)本実証実験において、「活動費用の支援」以外で必要となった費用について、可能な範囲で教えてください。</p>	<p>・地域の方だけで進められればそれに越したことはないが、社会実験は何かと専門知識も要するため、運営委託費も含めた費用を支援頂けるなら大変有難い。 ・逆にやはり購入品などの実費のみを対象とするならば、任意団体でも口座をつくるよう指導する、事前の振り込みができるようにするなど の検討を頂けるとスムーズかと思う。</p>

4. 活動費用の支援の利用用途

活動費用の 支援の総額	活動費用の支援の利用用途	活動費用の 支援以外にかかっ た費用
496,523 円	備品レンタル費 : 294,000 円 ワークショップ費 : 68,604 円 広告物印刷費 : 81,935 円 材料費 : 51,984 円	-